

埼玉県指定史跡

# 石田堤

SAITAMA PREFECTURE SPECIFICATOIN  
HISTORIC SITE ISHIDAZUTUMI

行田市堤根地区に残る石田堤は、天正18年(1590)6月に石田三成が忍城を攻めた際に築いた堤の一部です。この時石田三成は、延長14kmとも28kmとも言われる堤を短期間で築いて、忍城を水攻めしました。

石田三成は、どうして忍城を“水攻め”したのでしょうか？  
また、どうやって短期間に長大な堤を築いたのでしょうか？

その結果、忍城はどうなったのでしょうか？

この堤が伝える忍城水攻めの真実を、パンフレットを片手にあなたも体感して見てください。

## 忍城水攻め年表

- 天正十七年(一五八九) 十一月二十四日 豊臣秀吉諸大名に北条討伐の宣戦布告状を発する(真田家文書他)
- 天正十八年(一五九〇) 二月十二日 成田氏長小田原城へ出陣(成田記)
- 三月二十九日 山中城落城
- 四月三日 小田原城包囲始まる
- 四月十六日 松山城開城
- 五月二十二日 岩付城開城
- 六月五日 豊臣秀吉、石田三成に二万の軍勢を率いて忍城攻めを命じたことを、筑紫広門宛の朱印状に記す(筑紫文書)
- 六月上旬 石田三成率いる豊臣軍が忍城周辺に布陣、水攻め築堤に着手
- 六月七日 忍城代成田泰李病死、成田長親城代となる(成田記)
- 六月十三日 石田三成、浅野長吉・木村常陸介宛の書状に、忍城を包囲した軍勢は水攻めの用意をしているので城に攻め寄せる様子がないと記す(浅野家文書)
- 六月十四日 鉢形城開城
- 六月中旬 水攻め築堤を忍城籠城軍が破壊、濁水石田三成本陣を襲う(成田記)
- 六月二十日 豊臣秀吉忍城水攻め築堤の絵図を承認したので油断なく行うよう石田三成に指示(埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵文書)
- 六月二十日 豊臣秀吉の祐筆山中長俊より忍城開勸告の密書が成田氏長に届く、氏長、秀吉への取り成しを山中に依頼(忍城戦記)
- 七月一日 浅野長吉軍皿尾口に突入し、忍城籠城軍三十余りを討ち取る。その報告に豊臣秀吉は、水攻めをしっかりとやるよう指示(浅野家文書)
- 七月五日 忍城籠城軍城外に出て浅野長吉軍と交戦、双方に死傷者多数(浅野家文書)
- 七月六日 小田原城開城
- 七月七日 豊臣秀吉よりの上使忍城に着く(成田記)
- 七月十四日 忍城開城(瀧川文書・築田文書)
- 七月七日 豊臣秀吉よりの上使忍城に着く(成田記)
- 七月十四日 忍城開城(瀧川文書・築田文書)

### 【石田堤へのアクセス】

<秩父鉄道>行田市駅南口より  
行田市市内循環バス東循環  
堤根農村センター前下車徒歩8分

<JR 高崎線>北鴻巣駅東口より  
鴻巣市コミュニティバス「フラワー号」  
吹上北コース 袋下車徒歩5分

<JR 高崎線>吹上駅北口より  
朝日バス 行田車庫行・行田市駅行  
ものづくり大学入口下車  
徒歩23分

所在地：行田市堤根 1262 地先

ホームページ：[http://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai\\_itiran/isidadutumi.html](http://www.city.gyoda.lg.jp/41/03/10/bunkazai_itiran/isidadutumi.html)





## 豊臣秀吉の関東侵攻と忍城水攻め

戦国時代末期の天正17年(1589)11月、天下統一を目指す豊臣秀吉は、小田原城を拠点に関東地方に勢力を持っていた北条氏に宣戦布告し、関東の武力平定に乗り出しました。

秀吉は総勢24万とも言われる大軍を関東に派遣し、小田原城と北条氏に従う忍城などに攻めかかりました。迎え撃つ北条氏は、小田原城、山中城、鉢形城、松井田城など拠点となる城の守りを固める一方、忍城、岩付城、松山城など有力な支城の城主には、将兵を率いて小田原城に入るよう命じました。

豊臣秀吉の軍勢は、天正18年(1590)4月に小田原城を包囲し、北条方の関東地方の諸城を次々と攻め落として行きました。そして秀吉は、6月の初めに石田三成に佐竹義宣、宇都宮国綱、多賀谷重経、水谷勝俊、結城晴朝以下2万の軍勢を率いて忍城を攻めるよう命じました。

石田三成の軍勢が忍城を攻めた時、忍城主成田氏長と弟の泰親は、将兵を率いて小田原城に入っていて、城代成田泰季ら一族と正木丹波守利英ら家臣が忍城の守りに当たっていました。城内に周辺の領民が逃げ込み、城には雑兵・百姓・町人・子供らも含めて総勢2700人余りが入っていたと後世の軍記物である『忍城戦記』には記されています。また、6月7日には城代成田泰季が急死し、代わって息子の成田長親が城代になったと、やはり後世の軍記物である『成田記』には記されています。

石田三成は6月初旬頃忍城周辺に布陣し、丸墓山の上に立って忍城を眺め、

その地形から忍城を取り囲むように堤を築いて利根川、荒川の水を引き込み、城を水攻めすることを決めたと伝えられています。しかしながら、実際には秀吉の強い意向に基づいて水攻めは行われたようです。

6月13日に三成は浅野長吉、木村常陸介に宛てた書状に、忍城攻めの準備が整ったので先鋒隊を引き上げるように秀吉から指示があったこと、忍城を包囲した軍勢は、水攻めの用意をしているので城に攻め寄せ様子がないこと、城内から籠城する者の半数を出すと云ってきたが断っていることを記しています。

秀吉は6月20日に三成に宛てた書状で、三成から送られた堤の絵図面の内容を承諾するとともに、水攻めを油断なく行うことを申し付けています。

また、岩付城、鉢形城を攻略し、途中から忍城攻めに加わった浅野長吉が、7月1日に皿尾口に攻め込み、忍城方の兵30余りを討ち取り、それを秀吉に報告した際にも、秀吉は「水攻めをしっかりやるように」と返答しています。

さらに秀吉は、7月6日に上杉景勝、前田利長、木村常陸介、山崎堅家に、早々に忍城に向かい、堤を丈夫にするよう申し付けています。また、14、5日頃には岩付に向かうので、その際忍城を包囲している堤を見学するから、普請を油断なく行うようにとも命じています。

秀吉は忍城を水攻めすることに固執していたのです。それは天下統一の総仕上げの戦いで、長大な堤を築いて自らの権力を誇示したいと考えていたからなのかも知れません。

## 石田堤

石田三成が忍城水攻めのために築いた堤は、全長14kmとも28kmとも伝えられていますが、残されている部分はわずかです。現在では石田堤と呼ばれています。

石田堤は、行田市堤根の旧館林道沿いに282m程残されていて、埼玉県指定史跡に指定されています。また、忍川を渡った鴻巣市袋にも堤が続いていて、石田堤史跡公園として整備され、鴻巣市指定史跡に指定されています。それ以外にも行田市堤根の幸聖苑の裏手付近や、永徳寺の境内に点々と堤が残っています。さらに、行田市埼玉の埼玉古墳群の丸墓山古墳登り口へと続く50m程の道路や、行田市門井町の鷺栖神社の社殿の盛り土も、石田堤の名残りだと伝えられています。

石田堤については、大正2年(1913)に地元の郷土史家清水雪翁が実地踏査を行ない、地形や言い伝えから堤を推定復元した「石田堤現存図」を作成しています。この図で清水は、堤は行田市白川戸の西明寺付近から始まり、桜町の長久寺の西側を通過して丸墓山へと続き、さらに現在の堤根の石田堤まで南下、そこから堤は鴻巣市域を元荒川沿いに北上し、鷺栖神社を通過して熊谷市久下東竹院付近まで続いていたと推測しています。

また、旧吹上町(鴻巣市)で石田堤の一部を発掘調査し、堤の断面を観察していますが、それによると堤は元荒川の自然堤防上に築かれ、構築当時の高さは約3.2m、東側から西側にかけて斜めに土を積んでいます。さらに堤の中に版築を施し、堤を補強しています。堤の中からは埴輪の破片なども見つかっています。石田三成はこの地域に点在していた古墳を取り崩し、その土などを利用して自然堤防を補強して繋ぎ、短期間で堤を築き上げて行ったようです。

一説には三成は、長大な堤をわずか5日間で築いたとも言われています。しかしながら実際には、忍城攻めが始まってから約1月後の7月前半にも堤の補強等が行われていたことが、当時の記録からは伺えます。突貫工事でとにかく堤を築き、水を引き入れて水攻めを行いながら、堤の補強を行っていたのかも知れません。



■埼玉県指定史跡 石田堤

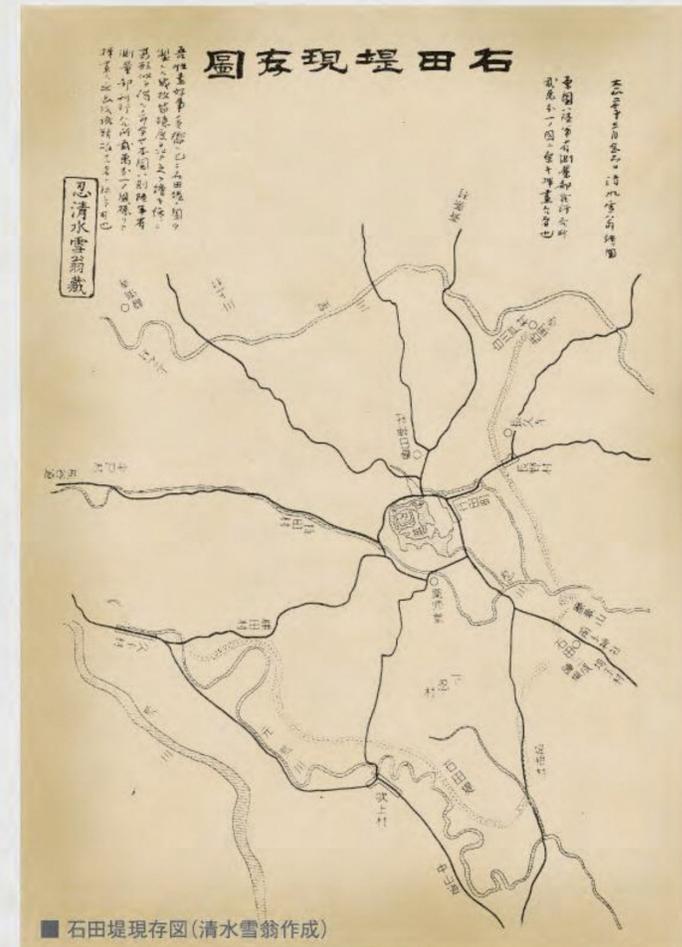
## 水攻めの終焉とその後の石田堤

このようにして築かれた石田堤に、周囲の河川より水を引き入れて忍城水攻めが行われたようですが、実際には城及び城下町部分にはあまり水は入らなかったようです。それは地形的に城及び城下町部分が周囲に比べて標高がやや高くなっていること、さらに忍城のある北側から石田堤が残る南側の堤根方面へと全体的に標高が低く下がって行くことから、引き入れた水は忍城付近ではなく、南側の堤根方面に溜まってしまったからではないかと考えられています。『成田記』には風雨に乗じて忍城の城兵が堤を崩し、それが原因で堤が決壊して水攻めが失敗したことが記されています。これが史実であるのかは不明ですが、水攻めの最中にも忍城の周辺で戦いが行われた記録が残されていることから、水攻めはさほど忍城に直接的なダメージを与えられなかったようです。

水攻めにもめげず籠城を続けていた忍城ですが、7月6日に小田原城が開城し、北条氏一門が秀吉の軍門に下ってしまう(開城前の6月20日に小田原城に籠城していた城主成田氏長は秀吉に降伏したと『成田記』には記されています)と、これ以上戦を続ける理由がなくなりました。そして遂に7月14日に忍城は開城し、成田氏の忍城支配は終わりを告げました。それと共に関東の戦国時代は幕を閉じ、時代は近世(江戸時代)へと大きく移り変わって行きました。

忍城の開城と共に堤としての役割を終えた石田堤ですが、江戸時代になると堤根の石田堤沿いに館林道が整備され、石田堤の上には黒松が植えられました(行田市指定天然記念物「石田堤の並木」)。

しかしながらそれ以外の部分は、長い間に取崩されて次第に姿を消して行き



■石田堤現存図(清水雪翁作成)

ました。それを憂いた幕末の堤根村の名主増田五左衛門は、慶応2年(1866)に石田堤の由緒を記した石田堤碑を建立し、石田堤を後世に残そうとしました。

現在では、行田市堤根の282mが埼玉県指定史跡に、それに続く鴻巣市の一部が鴻巣市指定史跡にそれぞれ指定されて保存されています。また、行田市分の史跡については、地元の自治会全戸が加入して「石田堤を守る会」が結成され、堤の除草・清掃等の保存活動が行われています。

## 石田堤碑



■丸墓山古墳登り口

凡そ耳目鼻口の心志を感動せしむるや目を最と為す。事の口碑に存するは物の目に存するに如かざる也。汴河の大堤は後の玉公をして驕奢を警め、西湖の蘇堤は後の士庶をして風雅を慕わしむ。聞くならく、当初天正十八年庚寅、豊公東征し相模に軍するや、石田三成等を遣わして忍城を攻めしむ。三成旧堤に因りて長圍を築き、利荒の二水を引きて之に灌ぎしも遂に抜く能わずして去る。後堤漸く圯廢し、纔に茲の土を存するのみと云う。蓋し当時民居稀少にして邑を成さざることを知る可し。乃ち、今、開墾して地を尽し、生齒蕃育す。其れ誰の賜ぞや。徳沢渙う所感載せざる可からざる也。増田豊純、堤の湮没に就き口碑を従って亡ぶるを慮り、石を樹てて之を表す。其意蓋し永く邑民をして之を望み徳沢を感載し、且つ多士をして目撃して、乱を治に戒めんと欲すれば也。世の矜伐功を勅し、虚しく諛墓を設くるものと殊に異る。静軒居士喜んで誌す。天正庚寅、今茲慶応二年丙寅を距ること凡そ二百七十七年なり。

秋巖原翠書丹 鈴木群雀鐫



■鷺栖神社